

Eastspring Asia Now

Vol.51

インドネシアでMRTが開通

eastspring
investments

日本の政府開発援助（ODA）を活用

首都ジャカルタで4月1日に営業運転を開始

- ▶ 2013年に着工した、インドネシア初となる地下鉄を含む都市交通（MRT）が今年3月末に開通しました。今回開通したのは、フェーズⅠと呼ばれるジャカルタ中心部の南北を結ぶ約16km、13駅（地上7駅、地下6駅）です。地下鉄はインドネシアでは初めての開通となります。今まで混雑時には車で1時間以上かかっていた区間を約30分で結ぶことになります。ラッシュ時は約5分間隔、通常時は約10分間隔で運行する予定です。運賃は始発駅から終点まで1万4千ルピア（約109円*）です。
- ▶ MRTには、改札機にSuica**の様な乗車カードをかざして乗車します。乗車カードは券売機で販売しており、チャージして繰り返し使用することができます。券売機では、現金の他に各銀行のマネーカードや複数の交通機関で利用できる「ジャック・リンコ」と呼ばれるICカード等も使用できます。営業運転開始初日には乗車カードをを求める乗客の長蛇の列が発生し、混乱を避けるために夕方の帰宅ラッシュ時には運賃無料の措置が取られたほどで、市民のMRTへの関心の高さが伺えます。 * 100ルピア=0.78円で換算

**「Suica」は、東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。

【ジャカルタの交通渋滞】



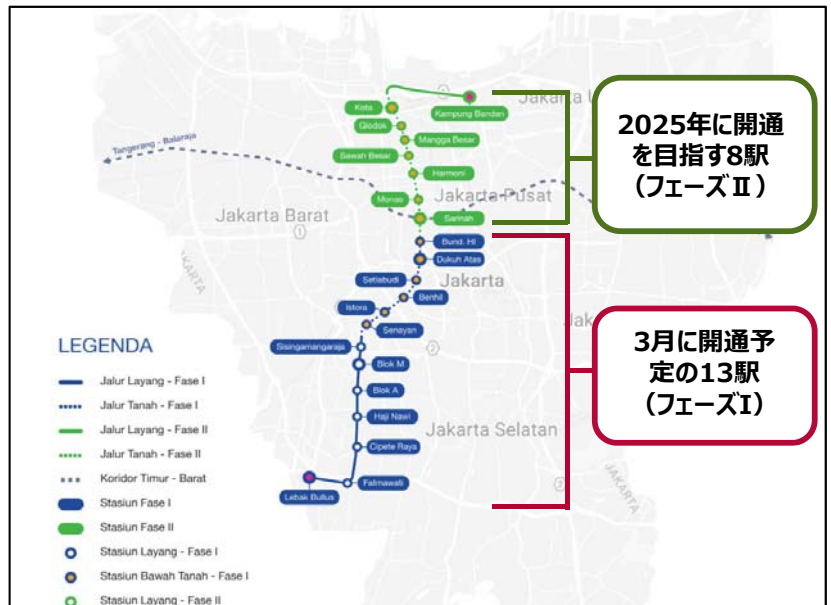
（上）夕方帰宅ラッシュ時のジャカルタの交通渋滞。
（下）車の間を縫うように走るバイクタクシー。

通勤に多くの人が車を使用するため、ジャカルタでは度々渋滞が発生します。自宅から会社まで「ゴジック」等のバイクタクシーを利用することも一般的です。



写真：弊社社員撮影。

【ジャカルタMRT路線図】



2025年に開通を目指す8駅（フェーズⅡ）

3月に開通予定の13駅（フェーズⅠ）

出所：MRT webサイトよりイーストスプリング・インベストメンツ作成。

渋滞緩和への期待、今後の課題も

- ▶ ジャカルタの交通渋滞は「世界最悪の渋滞」とも言われ、通常時には1時間で通行できる距離が、通勤時間帯等のラッシュ時には2～4時間掛かることもあります。MRTが新たな市民の足となり、交通渋滞緩和につながる事が期待されています。
- ▶ 一方で、課題もあります。郊外から中心部へ移動する通勤客を想定し、車やオートバイから電車に乗り換えるための「パークアイランド駐車場」が設けられた駅もありますが、駅から駐車場まで徒歩で約8分掛かります。同様に、バイクタクシーの乗降場も駅から徒歩数分掛かる距離に設けられており、歩道が十分に整備されていないこともあって「世界一歩かない」と言われるジャカルタ市民にとっては、電車を利用しづらい環境です。今後はバス等、他の交通機関との接続を良くする等の施策の他、郊外から直接電車で中心部へ向かえるよう、さらに電車網を発達させることを目指しています。
- ▶ 電車の利用客が増加すれば、駅周辺の不動産開発が活発化すること等も期待されており、今後のMRTの発展に注目です。

*当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。*また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。*当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。*当資料の内容は作成日時時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。*また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。*当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供するための作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。*当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。*2018年、アジア・インベスター・アセット・マネジメント・アワード（アジアインベスター誌選出、2017年度対象）をイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）リミテッドが受賞。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会



アジア・ファンド・ハウス・オブ・ザ・イヤー受賞*
イーストスプリング、アジアにおける最優秀運用会社に3度目の受賞